



第53回全日本大学個人選手権 2月16~18日 新狭山グランドボウル

斎藤翔選手1年目で金星 泉宗心音選手は有終のV

第53回全日本大学個人ボウリング選手権大会が、2月16日から3日間、埼玉・新狭山グランドボウルで行われた。男子は斎藤翔選手(同志社大)が1年生で選手権者に輝けば、女子は泉宗心音選手(聖カタリナ大)が最終学年で念願の初制覇を飾った。
(主催：(公財)全日本ボウリング協会)

【男子】

斎藤翔選手が、予選(12G)をすべて200アップの2847を打って、2位の山本青空選手(千葉商科大)に101ピン差をつけると、準決勝も5G目の299を含む1347を打って1位で決勝(3G)に進んだ。

2位の山本選手との差を142ピンと広げた斎藤選手が安全圏かと思われたが、山本選手が決勝1G目278、2G目248を打って、31ピン差に迫ってきた。最終Gも2フレからのターキーでほぼ追いついた山本選手だが、5、6フレをカバーミスで連続オープン。7フレからストライクをつなげて追いかけるが、斎藤選手が9フレからのターキーで勝負を決め、トータル4823で優勝した。山本選手は28ピン及ばず2位、3



▲2年前の全日本高校選手権に続くタイトルを獲得の斎藤選手「チーム戦の大学選手権も、4年間で一度は優勝したい」



▲一昨年2位、昨年3位とあと一歩優勝に届かなかった泉宗選手「ボウリング以外のこともするようにしたら、視野が広がった」

●斎藤選手のコメント

決勝の最終ゲームを前に貯金が31ピンになったときは、ちょっと焦った。でもスペアの練習をしてきたおかげで、ストライクがこなくても落ち着いてカバーをできた。まさか1年目で優勝できるとは思っていなかったけど、こうなったら4連覇も目指したい。

【女子】

「予選2G目に132をやったときは終わったと思った」と振り返った泉宗心音選手だが、3G目に268を打って立て直



▲優勝の斎藤選手(左)と泉宗選手

し、11G目にはパーフェクトをマークして予選をトップで通過した。準決勝はやや苦しかったが、ジャスト1200ピンで、トータル3801の1位で決勝に進んだ。2位には82ピン差で伊勢川華愛選手(和歌山大)が続き、さらに16ピン差の3位に高橋咲紀選手(青森中央学院大)がつけていた。

決勝は泉宗選手が625とまとめ、トータル4426で危なげなく優勝、最終学年を有終の美で飾った。一度は3位に落ちた伊勢川選手が最終Gに再逆転で2位、3位に立花選手と、決勝進出順位のままだった。

●泉宗選手のコメント

最近では予選がよくても決勝で順位を落とす大会が多かった。気が小さくて周りを気にしすぎていたと思うので、今回は自分の投球に集中した。威張れる内容ではないけど、我慢はできたと思う。また最近では、休むことの大事さも理解できるようになった。



▲泉宗選手との差を詰められず2位の伊勢川選手「それより一度3位に落ちたので、2位になれてよかった」



▲最終G157と落として3位の高橋選手「やることは試せた。悔いは最終ゲームだけ」



▲最終G連続オープンが響いて準優勝の山本選手「自分では取れたと思ったけど、すごく悔が残る」



▲「昨年同じ会場で優勝している古畑選手「相性の良さは感じていた。3位でも満足」



2月11~13日 / 津グランドボウル

JBC会長杯 第37回全日本年齢別選手権

447選手が年代別の覇を競う

19歳以下の部から70歳以上の部まで、7部門に447選手が参加、各部門予選9G、決勝3Gの12Gトータル(女子は1G15ピンのハンデ)で争われた。

19歳以下の部は、予選を2207で1位通過の石田万音選手(兵庫)が、決勝で722を打った内藤広人選手(静岡)の追い上げを22ピン退ける2907で優勝した。

20歳代の部は、予選で2位

以下に100ピン以上の差をつけた谷原美来選手(三重)が、決勝も717を打って、トータル2959で快勝した。谷原選手から107ピン差の2位に伊勢川華愛選手(和歌山)が入った。

30歳代の部は、予選1位の鶴見亮剛選手(神奈川)と2位の松永歳広選手(北海道)の優勝争いとなったが、最終Gに262を打った松永選手が、25ピン逆転する2774で優勝した。

40歳代の部も、北海道の鈴

木恒有選手と神奈川の細井祐也選手の優勝争いとなったが、こちらは最終G234を打った細井選手が、205の鈴木選手を23ピンかわす2793で優勝を飾った。

50歳代の部は、2003年に30歳代の部で優勝している鈴木英子選手(福島)が、トータル2754で2部門制覇を達成、2位には2707で武田孝史選手(富山)が入った。

60歳代の部は、予選で2707



▲各部門の優勝者、左から19歳以下・石田、20歳代・谷原、30歳代・松永、40歳代・細井、50歳代・鈴木、60歳代・梅田、70歳以上・播本の各選手 (写真提供：JBC)

を打ってリードを奪った梅田久徳選手(三重)が、そのリードを守ってトータル2692で優勝、38ピン差の2位で山中徹治選手(東京)が続いた。

70歳以上の部は、予選1位

の竹内隆司選手(兵庫)と19ピン差の2位の播本雄輔選手(京都)の1Gごとに順位が入れ替わる熱戦を展開したが、播本選手が23ピン退ける2674で優勝した。